

一般質問
12議員登壇

市政を問う



グラウンドゴルフ場建設予定地(新地公園)

市長 市民プールのとなりに平成27年から28年度に建設したい。

問 最初にグラウンドゴルフ場の場所について聞きたい。



徳峰 一成議員

パークゴルフを問う

市長／現段階では白紙の状態である

問 次に、パークゴルフ場について聞きたい。

市長 建設するかしないか、今後検討したい。

問 現段階では、未定白紙と受け止めてよいのか。

市長 現段階では白紙である。

臨時職員の待遇改善を

問 月14日勤務の臨時職員は70人である。手取り7万円そこそこでは生活できない。月20日勤務のものとの状態に戻すべきだ。

市長 ハローワークを通して、月14日勤務を条件に働いていただいてい

る経過がある。

問 14日勤務は、行政の施策としては根本的に間違っているのではないか。

次に日給5500円も引き上げを求めたい。

市長 引き上げは考えていない。通勤手当を引き上げたい。

高齢者向けの食料品の宅配サービス

問 高齢者向けの宅配サービスは市の積極的な支援が大事だと痛感している。新年度からの実施を、強く要求したい。

市長 新年度からの実施に向けて、市内3つある道の駅を利用して宅配サービスを進めたい。看護師の方が、高齢者の見守り対策をかねて宅配できるよう検討している。

地域振興住宅を補う少子化対策を

問 旧末吉町の活性化住宅を含むこれらの住宅には、現在154人の乳幼児、80人の小中学生が住んでおり、少子化対策で大きな意義と役割がある。ところが、市は本年度から、厳しい財政を理由に年間10戸建設に減らす方針である。これを補う、目に見える対策を聞きたい。

市長 宅地分譲、住宅建設の補助等を考えている。

問 あらたな対策の効果が出るまで、地域振興住宅はいつきに減らさず、弾力的、段階的に減らすべきではないか。

市長 きびしい財政の中で、それはむずかしい。

市道にかかる雑木の高所伐採を

問 この間の取り組み



急がれる高所伐採

は市民から大変喜ばれている。ただ年間600万円程度の予算は少なく来年度から1千万円以上に増額を要求したい。

市長 予算増額をした

生活できる
賃金体系が大事

ちょっと
ひとりごと

財部南中跡地の 新たな企業誘地は

市長／誘地活動を精力的に進める



泊ヶ山正文議員

問 小規模校区活性化のため財部南中跡地の企業誘地を早急に考える。

られないか。

市長 財部南中跡地に誘地した財部コールセンターの閉鎖を受け企業誘致活動を行っているが、誘致に至っていない。今後、精力的に進める。



早急な企業誘致を

問 要望の強い地域振興住宅の拡大はできないか。

市長 地域の人口増加対策及び活性化対策として確実な振興策であるが、多額な予算を必要とするため今後10戸以内の建設を考えている。

問 鳥獣被害対策を強力にできないか。

市長 新年度から駆除費の増額、電気柵の設置補助拡充を考えている。

問 片蓋・柿木線の早期改良を。

市長 幅員も狭く急カーブも多いことから、財源等について検討し、総合振興計画に計上し、財政状況を勘案し整備することになると考えている。

産業観光について

問 産業観光についてどのように認識しているか。

市長 本市の一次産業と観光の関係という観点から、曾於市最大の産業である農畜産業を豊かな自然の中で体験していただき、交流人口の増に努めていく。

問 県外修学旅行が体験型旅行へ要望が高まっている。曾於市の受け入れ状況は。

経済課長 曾於市グリーツーリズム協議会が修学旅行生の農業体験受け入れを平成24年度より実施している。

24年度が1校で36名、25年度が1校35名、26年度が2校64名と、いずれも関西地区の修学旅行生である。

問 農畜産業の産業観光の現状と、今後の方向性は。

市長 市の主催による産業観光は取り組んでいないが、観光特産開発センター主催の農産物収穫体験ツアーは実施している。

今後、曾於市最大の産業である農畜産業を、豊かな自然の中で体験していただき関係団体と連携し交流人口増に努めていく。



曾於市へようこそ体験ツアー

農村部に力強い光が
ほしいなあ

ちょっと
ひとりごと

今後、一層厳しい 財政状況であるが

市長／さらなる行財政改革に取り組む



迫 杉雄議員

問 平成26年度から平成35年度の市財政計画について、特例交付されている地方交付税を鑑み基金等の半減に対して、見解を伺いたい。

市長 財政計画の見直しについては、地方交付税の減と扶助費等の今後の財政需要の増加に対して、不足する分を普通建設事業の削減により財政計画を策定している。

問 既存事業の聖域なき見直しについて、平成25年度の決算を点検し、どう対応されるか。

市長 公共施設の統廃合や既存事業の見直しなど、更なる行政改革に取り組むことを具体的な計画に定め、市民及び議会のご理解とご協力をお願いしている。

問 地方債に対し、公債費の財政収支計画による年度別元利償還金の平成35年度の計画目標並びに特定基金の状況についての見解を伺う。

市長 健全な財政を維持するために、一般財源で対応する公債費は

30億円以下が望ましい。

平成35年度末基金残高は52億8千600万円となるが、さらなる積み増しが必要である。

文化財保存管理は

問 文化財の全般的な保存管理の状況と、今後はどのような対応が考えられるか。

教育長 屋外の文化財においては、標柱、案内看板及び清掃などの環境整備を実施し、内部所蔵品は定期的な燻蒸を実施し、古文書については破損による滅失などを防ぐため、計画的デジタルデータ化を進めている。

問 旧3町で対応されている歴史民俗資料館等（古民具、古文書）について今後、なお一層対応が必要であるか。

教育長 今後は展示などについて、計画的に展示品を入れ替えるなどその活用の方を工夫する必要がある。

問 合併10年を経過するが、一ヶ所に収集して市民が目につくことへの議論や計画はないのか。

教育長 旧町の3館の収蔵物を一ヶ所に集めることについては、現在のところ計画はないが、今後どのような方法があるか検討していきたい。

市長 展示室の容積、空調管理の必要な収蔵室の容積から現存の3館ではいずれも対応しきれない。今後、慎重に検討する。



集約展示が望まれる歴史民俗資料館

来年は、第30回国民文化祭
inかごしま、文化に目を
向けるべきだ

ちょっと
ひとりごと

人口増施策は

市長／プロジェクトチームを設置し検討を進める



伊地知厚仁議員

問 人口増をめざし地域活性化を推進する市



定住効果がある地域振興住宅

市長の基本方針はどのよう
に考え対策を講じた
か。

市長 人口増対策、少
子高齢化対策はもつと
も優先する政策課題だ
と認識している。これ

まで、地域振興住宅の
提供、住宅取得祝い金
の交付、分譲地の販
売、18歳までの医療費
助成、保育料等の助
成、第3子祝い金等で
対策を講じている。

問 人口減少に対する
新たな施策は。

市長 今後、本市でも
人口減少対策に対して
プロジェクトチームを
設置し検討を進める。
また、住宅取得祝い金
の増額を現在検討して
いる。

問 本市外に住宅を置
いている市職員・教職
員を、市内に居住させ
る取り組みはできない
か。

市長 職員には庁議等
で市内へ転居をお願い
している。また、職員
採用試験では、受験資
格に「原則として本市
に居住できる者」と掲
載している。

教育長 教職員283
名中105名が市内に
居住し、178名が市
外より通勤している。

教育委員会としても校
区内、市内居住を積極
的に指導し、校区内
市内居住のもつ意義を
十分理解してもらい
その実現に努める。

市職員・教職員の 健康管理は

問 市職員・教職員の
健康問題を抱える職員
への対応は。

市長 本年度から精神
的（メンタルヘルス）
については、24時間対
応の相談窓口を設置
し、カウンセリングを
行っている。

教育長 定期健診や人
間ドックを通じて早期
発見に努めるほか、メ
ンタルヘルス相談も行
ない職場環境づくりに
努めている。

問 健康推進事業（予

市長 市民への広報
は、市報、オフトーク、
有線放送とホームページ
で周知している。

問 水痘及び成人肺炎
球菌の予防接種の市民
への広報は。

市長 対象者が特定さ

学校に子どもたちが増える
夢のような
施策はないかな？

ちょっと
ひとりごと

れている予防接種は、
個別に通知をしている。

24

HOUR

そおし健康安心電話

24時間 年中無休 / 通話料・相談料無料

平成26年6月1日より

携帯電話からも使用可能です。

赤ちゃんが夜中に
熱を出した。
どうしよう？

不意のケガの応急処置で、
どうすればいいの？

病気のことでひとりで
悩んでしまう時

夜間・休日の
医療機関のご案内

医師・保健師・看護士などの相談スタッフが24時間・年中無休体制でご相談に応じ、わかりやすくアドバイスいたします。

気になる身体症状

けがの応急処置方法

医療機関情報等のご提供

●いつでもどこからでも、曾於市にお住まいの皆様が無料（フリーダイヤル）でご利用できます。

0120-177-282

再発相談受付不可

ご利用方法 電話がつながりましたら、お名前・年齢を告げてください。ご相談内容に応じてアドバイスいたします。

曾於市

（担当課：保健課）

0986-76-8806

県内初の電話による健康相談サービスを開始

全小学校の 通学バス運行は

市長／いろんな方面で協議してゆく



八木 秋博議員

問 少子化対策としての地域振興住宅の結果は評価されるものであるが今後の展開は。

市長 確実な人口増、少子化対策ではあるが、反面、多額の費用を要し財政的に無理を生じているため、縮小の方向で考え、それに変わる他の方策を検討している。



通学バスで安全に登校（財部小）

問 文科省による学校統廃合指針における曾於市の小学校についての対応をどう考えるか。

市長 「通学距離や通学時間等、児童・生徒の安全やその影響を十分検討し配慮すること。また、地域住民の理解と協力を得るよう努めること。」となっており、指針に対しては、基本的には地域住民の合意が大前提と考えている。

問 現在一部の地域で運行している小学校の通学バスを全域に拡大することは。

市長 現在、財部地域で運行している小学校の通学バスをさらに末吉、大隅地域まで拡大することは現在のところ考えていない。

問 思いやりバス・タクシーや中学生通学バス等と連携を図れないか。

市長 今後色々な方面で協議し検討していく。

岩川芙蓉基地跡の活用について

問 岩川海軍航空隊基地及び芙蓉之塔をいかに認識しているか。

市長 太平洋戦争末期、秘密基地として特攻作戦を拒否し夜襲戦法に徹した「芙蓉部隊」基地跡であり、戦後、部隊生存者、遺族大隅町有志等で隊員の顕彰と慰霊のため、芙蓉之塔を建立され毎年、戦没者追悼式が執り行われている。

問 追悼式の経費等は設立当初の寄附金の浄財で賄っているが、保存会である元隊員もほとんど亡くなり基金も枯渇寸前である。市をあげて取り組みできないか。

市長 関係者の皆様のご苦勞に対し心から敬



芙蓉之塔（八合原）

意と感謝を捧げるものである。芙蓉の塔は芙蓉部隊の顕彰と慰霊を後世に伝える象徴であり、前向きに取り組んでいく。員の遺品や基地に関する資料等お預かりし、展示場所の充実を図ることが賢明である。

問 教育的見地、また観光資源として記念館設立は考えられないか。

市長 幻の戦闘部隊芙蓉部隊が岩川の地にあったことは極めて貴重な事実である。現在部隊に関する写真等は市の埋蔵文化財センターの一角にある。今は元隊

辺地通学バスは過疎対策の最たるもので「地方創生」では？

ちょっと
ひとりごと

深川駐在所跡地を 見守り隊立ち寄り所へ

市長／現在検討中である



九日 克典議員

問 深川駐在所の跡地
利活用についてどのよ
うに考えているか。

問 子ども見守り隊の

市長 建物は県警と無償譲渡について協議をおこなっている。官舎は市有住宅としての利用、駐在所については構造的に住宅としての利用が難しい。



出発前の見守り隊

活動の拠点として利用できないか。

市長 地域住民より防犯ボランティア団体の立ち寄り所としての利用を望む声があり、現在検討中である。

学校の環境整備は

問 電子黒板の活用状況は充分か。

教育長 実態調査では85%の教職員が「授業中に活用して指導することができ。」とあり、教科間の活用度合いの偏りも特に見られない。活用がさらに進みつつある。今後、学力向上により一層結びつくよう効果的な活用方法を検討する。

問 校庭等が広大である小規模校では、管理者に大きな負担ではないか。

教育長 小学校20校中16校で複式学級を有し

ている。PTA戸数も減少し、環境整備のすべてを賄うことは難しく大きな負担となっている。

問 シルバー等に管理依頼等はできないか。

教育長 PTAの準会員制度を活用して校区の方による奉仕作業で対応しているところもある。学校に無理な負担がかからないよう努力する。

定住促進対策は

問 地域振興住宅を今後どのように取り組まれる考えか。

市長 一般財源充当のため多額な費用が負担となるため、継続が困難となる。今後は縮小の方向であり、それにかわる他の方策について検討する。

問 払い下げが可能と聞くが内容を伺う。



学校の落葉樹

市長 財源は過疎債や国庫補助金を活用し整備している。借り入れ償還が終了し、施設処分可能となる年数が到来したら財務省と協議後、土地や建物の評価を適正に行い払い下げする。

問 市内に分譲地計画はないか。

市長 通勤・通学に便利な所、買い物等に便利な所、分譲価格の安い場所を地元の協力・理解を得ながら整備・計画していく。

安全で快適な暮らしができる
地域で暮らすことの喜びが
「しあわせ」の根源だ

ちょっと
ひとりごと

学力向上へ 土曜授業再開か

教育長／毎月1回第2土曜日の計画で
ある



土屋 健一議員

問 土曜授業再開の背景に何があるのか。
県教育委員会の指導

はどの程度進んでいるのか。

教育長 今まで土曜授業はなかったが、共働きの増加、少子化等社会情勢の変化の中で週5日制授業の目的とかけ離れ土曜日を無為に



真剣なまなざしで理科実験

過ごしている実態が問題視されるようになった。25年9月文科省の検討チームのまともを受けて同年11月国によって学校教育法施行規則が改正され、それを背景に鹿児島県が条件整備を進め、26年10月県の定例教育委員会に説明がなされ、正式に12月3日市町村教委に通知され、発表となった。説明会等は今後なされる。

問 どのような方法で実施されるのか。
関係者への説明は。

教育長 月1回第2土曜日、半日単位の見込みである。学校管理規則の改正、その他検討課題は多い。説明会の方針が固まり次第実施する。

問 スクールバスの調整と学校給食の要否は。

教育長 現在、部活動のために中学校のスクールバスは土曜運行も実施しているので問題は無い。午前中に授業は終わるので給食は必要ないと考えている。学童保育の17施設との連携も強化したい。

不登校児童生徒の 対策は万全か

問 現在どのような対策をとっているのか。
効果は。

教育長 スクールカウンセラー2名、心の教育相談員3名を配置して相談活動の充実に努めている。スクールソーシャルワーカーは現在1名であるが福祉と連携して解決に取り組んでいる。
23年度40名の対象児童生徒数であったが25年度は32名に、26年度は20名まで減少している。

問 他の市と比べて対象児童生徒は多くないか。
対策方法は劣っていないか。

教育長 少ないとは言えない。相談活動の充実に努め予防に主眼を置いた取り組みを進める。学校に登校できない児童生徒のために適応指導教室の開設について検討を進めている。



今日も元気に登校（末吉中）

子どもは国の宝

ちょっと
ひとりごと

クリーンセンターの 運営状況は

市長／今後、大規模改修工事を行う予定
である



今鶴 治 信議員

が経過しており老朽化が著しく検討委員会は、クリーンセンターの大規模改修による延命化を図るとあったがその計画内容は。

問 9月議会の総務委員長報告にクリーンセンターは、建設後18年

市長 5回の検討委員会を開きクリーンセン



ごみ分別作業中（クリーンセンター）

ターの現状と課題の対策について協議し、7億8360万円かけて平成27・28年に計画を立て、その後3年かけて長寿命化のため大規模改修工事を行う予定である。

問 クリーンセンターは、合併前の旧末吉町時代に建設されたが、ゴミ焼却の処理能力は大丈夫なのか。

市民課長 旧末吉町時代は週3回で年間3400トン焼却していたが、平成25年度は週5回で5400トン、1日当たり22・5トン焼却している。稼働率は110%である。延命化のためには70%くらいの稼働率がいいとされている。

パークゴルフ場・フラワーパーク計画
予定地跡地利用は

問 木材業者の誘致の予定だと聞いているがいつ頃になるのか。

市長 企業誘致については、国・県の支援をお願いしているが、詳細については、今のところ未定である。

問 国の「力強い木材産業づくり事業」は平成26年度で終了するが、この事業による企業誘致は可能か。

市長 事業の延長を国に要望中である。

都城北諸県地区清掃
公社は

問 事件の内容は。

市長 平成23年1月に新燃岳の噴火により都市に大量に降った降灰の収集・運搬の業務委託の水増し請求によ



大変な降灰除去作業

り多額の処理料をだまし取った詐欺事件である。

問 悪質な企業に対して厳格に一定のペナルティを科すべきではないか。

市長 曾於市指名競争入札参加資格及び指名基準に関する要綱により契約を続行することには問題はない。

ゴミの減量化は市民
一人ひとりの協力で

ちょっと
ひとりごと

フラワーパーク 予定地の跡地利用は

市長／グラウンドゴルフ場建設は考えていない



市長 昌昭議員 刈合

問 胡摩地区の地権者から土地を購入して1年が過ぎようとして



文化財発掘作業中の胡摩地区

いるが成果が見られたか。

市長 胡摩地区へのパークゴルフ場・フラワーパーク等整備計画については白紙にしたところである。これを受けて、市民からなる検討委員会

を設置し、協議をかさねた。最終的には市長判断として企業誘致に努めていくことを決め、現在に至っている。

問 市長が企業誘致をしようとしている外山木材との協議内容は。

市長 外山木材の進出については、事業計画・事業費計画等の協議を行っている。立地の際の国・県からの支援を要請している。

問 企業誘致ではなくグラウンドゴルフ場にする考えはないか。

市長 市内には多くのグラウンドゴルフ愛好家がいる。グラウンドゴルフ場の整備については、フラワーパーク跡地へは考えていない。

問 集落で手軽にできるグラウンドゴルフ場を作る考えはないか。

市長 市内には集落の空き地等利用され、グラウンドゴルフ場として地域が主体となり整備から活用まで行っているところもある。

今までどおり集落で整備していただきたいと思うが、今後、検討していきたい。

問 市が計画しているグラウンドゴルフ場は。

市長 練習場、公認コースとして、大会等を開催することを視野にいれたものである。

曾於医師会立病院の存続について

問 曾於医師会立病院の存続は。

市長 曾於医師会立病院は昭和59年3月に10科で開院した。その後30年が経過しているため施設の老朽化が進み、医師の数が減少し診療科も減っている。地域医療が提供されるように



充実強化が望まれる曾於医師会立病院

存続に向けて取り組んでいきたい。

問 市長は曾於地区の首長と存続について話し合いをしたか。

市長 地域医療のあり方について医師会立病院と有明病院等の統合に関する件について話し合いを進めている。

問 岩川高校の跡地を利用する考えはないか。

高度な地域医療に期待される
曾於医師会立病院

ちょっと
ひとりごと

市長 医師会を含めた2市1町での協議が必要であり、現在のところは岩川高校の跡地利用は考えていない。

胡摩地区の企業誘致は

市長／この事業ができない場合は白紙になる



岩水 豊議員

問 企業誘致の現状は。活用したい国・県の補助事業の内容について示せ。

市長 外山木材の誘致



文化財発掘調査中の胡摩地区

流末排水工事は、市でするのか。

市長 林地開発・農地転用の申請と造成工事は誘致企業側がする予定である。

流末排水工事は市でする予定であるが、まだ検討していない。

問 用地活用段階で流末対策を検討することは、基本中の基本ではないか。

市長 重要なこととは認識しているが、補助事業が確定してから検討していく。現在の段階では提示できない。

問 用地買収時にはパークゴルフ場・フラワerpark等整備事業のための用地として契約されたが、現在進めている企業誘致は契約違反になるのではないか。

市長 計画変更の了解を地権者に取らなかつ

たことは、誤りがあつたと反省している。

問 契約違反に当たるので、全地権者の承諾を早急に取る必要があり、企業誘致もできなくなる可能性があるのではないか。

市長 全地権者に説明し了解を得るようにする。

問 用地活用（企業誘致）計画・プランをたて、コンプライアンス（法令遵守）に照らしあわせて、進めるべきと考えるが。

市長 今後、慎重に進めていく。

問 豚流行性下痢（PED）等の対策は

曾於市の対応は。

畜産課長 県地域重要疾病防疫体制確立事業による動力噴霧器購入事業や、消毒薬の配布



大隅町 PED 消毒ポイント

をしている。
また、非常用の消毒薬の予備を準備している。

平成26年度曾於市財政計画について

問 財政計画発表に、既存事業の聖域無き見直しを図ると記載されているが、具体策は示せるか。

市長 今後、あらゆる事業を精査していく。

問 合併当時（平成18

胡摩地区の土地を
売られた方は、契約書を
もう一度、見てみましょう。

ちょっと
ひとりごと

市長 早めの見直しをしたい。

事故多発現場に 道路標識を

市長／警察に再度強く要請したい



宮迫 勝議員

べき状況である。警察署、交通安全協会、地元等と連携し、事故防止の対策を講じていきたい。

問 曾於・肝付ブロックに交通事故多発警報が発せられた。市長の認識を伺いたい。

市長 きわめて憂慮す



気をつけよう交差点

問 財部町の養原新田の田んぼの中の道路で事故が多発している。大きな事故が起きないうちに対策を取るべきだと思うがどうか。

市長 優先道路、一旦停止の標識等については、警察と協議したい。

標識については現場が見通しがよい場所なので警察は難色を示しているが、再度強く要請したい。消えなかった道路のライン等は調査して作業させる。

グラウンドゴルフ・パークゴルフ場は

問 グラウンドゴルフ場の構想はどうなっているのか。

市長 約2haの敷地内に約1.5ha芝生広場を設け、3コースの公認コースとしたい。

その他トイレや休憩所、用具庫等、排水路、園路、駐車場、給水施設や照明施設等の設置を考えている。

問 3つのコースに分けるより、大きな1面の方が使いやすいのではないか。

市長 十分検討したい。

問 設計段階からグラウンドゴルフ協会等の意見を聞いて、納得のいくコースにして行くべきだと思うが。

市長 楽しみやすいコースにするために、関係者の意見を聞いて、設計に活かしたい。

問 パークゴルフ場の基本的な考えを伺いたい。

市長 造る造らないを含めて検討したい。今の段階は白紙である。

少年の主張大会は

問 「少年の主張大会」は10人の熱弁で大変感動した。もともと多くの人にこの感動を味わってほしいが、何か取り組みはできないか。

教育長 発表を聞きながら涙する家族もいた。今後さらに工夫したい。



熱弁の「少年の主張大会」

スポーツ選手の応援は

問 曾於市出身のスポーツ選手が活躍して、感動と元気をもらっている。所見を伺いたい。

市長 後にくる児童生徒にやる気を起こさせ、大人は元気をもらっている。

問 その頑張っている子どもたちの全国大会等への出場に対して、垂れ幕等の応援・支援はできないか。

頑張っている子ども達を
みんなで応援しよう。

ちょっと
ひとりごと

市長 立てる場所も含めて総合的に考えたい。

曾於市の人口動態は

市長／人口増へのプロジェクトチームを検討したい



坂口 幸夫議員

市長 合併時から、平成26年11月末現在の人口は左記のとおりである。

問 合併時、現時点の市全体の人口、旧3ヶ町ごとの人口をそれぞれ示せ。

問 合併時に比べて現時点で人口の減は、市全体旧3ヶ町ごとどのような数値になるのか。

曾於市の人口推移 (単位：人)

	17 年 7 月	26 年 11 月
財 部	10,688	9,084
末 吉	20,330	18,775
大 隅	13,050	11,001
曾於市	44,068	38,860

市長 平成26年11月30日現在では、曾於市全体では、5208人の減少で11.8%の減、旧町ごとでは、末吉町が1555人の減少で7.6%の減、大隅町が2049人の減少で15.7%の減、財部町が1604人の減少で15%の減となっている。

問 市長は人口減の歯止め策をどのように取り組む考えか示せ。

市長 今後、人口減少を少しでも食い止めるためにプロジェクトチームの設置を検討したい。

問 県有地の有効活用についての市長の考えは

市長 岩川高校跡地の活用については、広大な敷地、弥五郎インターまで車で5分の利便性等を考慮し、市長がリーダーシップを強力に発揮し、岩川市街地に

の活性化のため、さらに努力してほしいと思うが市長の考えは。

市長 岩川高校の広大な敷地は、その周辺部を、県道、市道が走るなど利便性も高く、また、静かな周辺環境など立地条件にもたいへん恵まれている。閉校後の有効活用が岩川市街地及び曾於市の活性化にたいへん重要だと認識しており、今後、議会や市民の皆さんのご意見を伺いながら迅速に取り組んでいく。

曾於市のPR看板設置は

問 市のPRを兼ねたインパクトの強い看板を幹線道路の市境界地に設置する考えは。

市長 市をPRする看板設置は、重要なことである。今後、内部で検討しインパクトのある看板設置に取り組んでいく。

教育行政について

問 市内3中学校の柔道部、剣道部は輝かしい伝統と実績があるが、生徒数の減少が進む中、部活動の継続に不安はないか。

教育長 生徒数の減少により現在の部活動をそのまま維持することは多くの困難が伴うと考える。

部活動の存続のためには、武道のよさや、魅力を子ども達や、保護者に広く理解しても



設置増が望まれるPR看板

平成27年が市民の皆様にとってすばらしい一年でありますように

ちょっとひとりごと